

# ベトナム中部山間地域における村人と行商人の経済活動 と在来マーケット機能に関する実態調査

～トゥアティエンフエ省アルイ県ホンハ社の例～

松野下 稔

キーワード：ベトナム中部、マーケット機能、バイク行商人、地域産品、小売店

## 1. 研究の背景と目的

地域開発支援の現場では、インフラ建設が重視される傾向がある。そのため外部者が現地の実情を踏まえずに、それが失敗するケースが報告されている。このような傾向は、地場産業の活性化や世帯収入向上のために行われるマーケット支援においても散見され、行政や援助団体の主導で、現場の声が不在のままに作られたマーケット施設が使われること無く失敗に終わった例も存在する。ベトナム中部の都市フエから南西に45kmの山間地域に位置するホンハ村においては、近年村人の間でマーケットへの関心が高く、外部支援による設置を望む声があがっていた。しかしながら、本村にマーケット施設が自然発生しない理由や、マーケット機能の有無、望ましい経済活動発展の方向性は不明確であり、そのための基礎調査も少ない。本研究では、マーケット設置への地域支援を検討する前提となる村の経済活動の実態把握を目的として、村人や行商人などに聞き取り調査を行った。

## 2. 村の在来マーケット機能を担う人々

### (1) 村の店による小商い

村の46世帯（全世帯の17%）が雑貨、食堂、バイク修理という商品・サービスを提供する小商いを行っていた。近年、これらの商売を本業とするキン族（国の主要民族だが村では少数）に加えて、農業を主生業とする少数民族も副業として商いを始めていた。生活必需品についての小売機能は十分に発達していると考えられる。また一部の商店では、地域産品を外部のトレーダーに販売する機能も有していた。

### (2) バイク行商人

フエ等の近郊の町から20人以上の行商人がバイクで来村し、生鮮食品や軽食、洋服、日用品などを販売していた。そのうち生鮮食品の行商人は7人おり、それぞれが村人に廉価で新鮮な食材（野菜、肉、海産物など計60品）を毎日提供していた。ツケ払いや注文、物々交換も可能で、村人との結びつきが強いことも判明した。

### (3) 農民

村の農家（対象18世帯）はキャッサバや家畜などの生産物に加えて、45種の産品を販売していた。これらの産品は外部の商人や雑貨店、食堂、バイク行商人によって外部へ移出されているが、販売量の多少は集落毎に差が見られた。また、フエなどの都市部の消費者にとって希少価値の高い産品が存在することも確認された。一方で、村人同士での売り買いは少なく、おすそ分けの慣習で一部代替されていた。



写真1 村の雑貨店



写真2 バイク行商人



写真3 村の産品

## 3. 得られた知見

ホンハ村にはマーケット施設こそ無いものの、他地域の生産物を小売する機能（小商い、行商人）、地域生産物を移出する機能（小商い、行商人、村人、外部の買取商人）、地域内での交換機能（おすそ分け慣習、食堂、村人）といったマーケット機能が既に存在し、村人の暮らしや経済活動に寄与していることが明らかになった。これらの在来マーケット機能を強化することは、村の生計向上のために有効な一手段となろう。このように現場の実情を詳細に把握し、地域が内在する機能を活かす施策も、外部者が関わる開発援助においては重要と考えられる。